

# 数学・数理科学専攻若手研究者のための異分野・異業種研究交流会 の新体制の発足によせて

早稲田大学基幹理工学部・東北大学数理科学共創社会センター

小菌 英雄

数学・数理科学専攻若手研究者のための異分野・異業種研究交流会（以下交流会）は、数学専攻の博士後期課程学生をはじめとする数学・数理科学系の若手研究者と諸科学や産業界とのマッチングの場として、産官学協働のもと2014年から開催して参りました。その間、日本数学会のひとつの委員会である社会連携協議会が、運営の主体を担ってきました。社会連携協議会は、若手数学者の育成、数学研究の交流及び数学の研究成果の普及を産官学協働のもつ行うことを目的に、2015年に発足しました。これまで、数学会の年会や秋季総合分科会におけるキャンパスセミナー、学位取得後の進路調査アンケート、そして交流会の企画・運営を主な所掌事項として活動して参りました。数学会の他の委員会と異なり、同協議会は会長や顧問が産業界から選出され、数学会会員に加えて日本応用数理学会、統計関連学会連合の会員も委員を務めていました。時代の変遷にともない、進路調査アンケートは『数学通信』編集部へと受け継がれ、また交流会は、新たに上記の3学協会が協働で運営する「異分野異業種研究交流会」が担うこととなり、社会連携協議会は先の6月30日をもって発展的に解消されました。交流会の事務局はこれまで九州大学マス・フォア・インダストリ研究所の担当でしたが、今年度から新設の東北大学数理科学共創社会センターが引き継ぐこととなりました。同協議会においては、特にこれまで産官学への数学振興に多大なご尽力を賜った中村雅信会長（株式会社ハーモニック・ドライブ・システムズ）、坪井俊副会長（武蔵野大学）、前田吉昭幹事（慶應義塾大学・東北大学）に、九大IMIにおいては、交流会の財政的および事務業務に温かいご支援を賜った佐伯修前所長、溝口佳寛教授、中嶋ひとみ様、井上あつ子様がこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

この様に交流会の組織運営母体は新体制へと移行しましたが、数学・数理科学系の博士後期課程に在籍する若手研究者に、諸科学や産業への応用展開に数学の未だ見ぬ力を発見してもらうことや、産業界を含む様々な分野で活躍できる場の存在を認識してもらうことを主たる目的とすることは、これまでと同様です。また、高等学校、大学を含む教育・研究機関の教職員や企業関係者の方々にも、産業界における数学・数理科学やその知識を有する人材のニーズを把握してもらうことを役割とすることも変わりません。交流会では、3学協会の理事長・会長の開会挨拶から始まり、文部科学省基礎・基盤研究

課・課長の祝辞と数学・数理科学への期待と重要課題の紹介の後、主に産業界で数理科学を背景に活躍をされている方々を招いて基調講演が行われます。次に参加企業・研究所紹介のプレゼン（一企業・研究所あたり3分程度）が実施されます。ハイライトは学生によるポスター発表であり、在学中の研究成果をポスター展示の形式で発表し、大学関係者に加えて企業・研究所の参加者との活発な質疑応答や白熱した議論が展開されます。産官学の各界からなる審査委員会を構成し、諸科学・産業への応用や更なる展開が期待される研究内容を有する発表を「ベストポスター発表」として表彰しています。また参加学生と企業・研究所の個別交流を目的として企業ブースを出展し、学生個人の興味に従って自由に訪問することにより、双方向のコンタクトを推進しています。2020年度から昨年度までの3回はコロナ禍のためにオンライン形式での開催を余儀なくされました。しかし、その様な中でも開催校のご尽力により、Zoom Webinar や break out room 等を駆使することによって、例えば2022年度（明治大学先端数理科学インスティテュートにて開催）では登録者202名（一般参加登録157名、ポスター発表45名）、企業参加23社でした。

今年度は4年ぶりに10月14日（土）に中央大学・後楽園キャンパスを会場に対面形式の開催を予定しています。詳細はこの『数学通信』に折り込まれているチラシ

数学・数理科学専攻若手研究者のための異分野・異業種研究交流会 2023

と公式ウェブサイト

<https://jsiam.org/career2023/>

をご覧ください。多くの皆様のご参加をお待ちしております。